

カタール 日本が輸出拡大を視野に「フルーツウィーク」を開催

The Peninsula 2024年1月19日

カタール、ドーハ：日本は農産物の海外輸出拡大を目指しており、特によく知られた果実の輸出を重視している。前田哲駐カタール日本国大使は昨日、パールカタール地区にあるジュンコ・レストランで開催された日本フルーツウィークのオープニングで、この取り組みを発表した。



写真: ジョエリン・バルユット/ザ・ペニンシュラ

このイベントは1月22日(月)まで開催され、クラウンメロン、白・ピンク・赤のイチゴ、有機安納芋、ブドウ、リンゴ、レモン、はるかジュース、デコポンジュースなど、様々な日本の青果物が展示される。

前田大使は挨拶の中で、日本がその豊かな地理的多様性と自然環境により、様々な果実や野菜を生産できることを強調した。また、海外への輸出の増加傾向は、優れた美味しさに加えて、日本の生産者の「安心・安全」へのこだわりが、世界的に高く評価されていることを反映していると訴えた。

大使は、「日本の果実は品質が高いため、どうしても値段が高くなり手が届かないという声もあるが、カタールの人々は、レクサスのような高級車ブランドなど、高級で高品質な日本製品を理解する点で、世界で一番相応しいと100%確信している」と述べ、カタールの人々が高級品を高く評価することに自信を示した。

一般社団法人日本青果物輸出促進協議会(J-FEC)の菱沼義久会長は、これはカタールで初めての日本フルーツウィークの開催であり、高品質の日本産果実をカタールに紹介し、ビジネスチャンスを育むことを目的としていると述べた。

イベントに先立ち、日本の果実生産者らは、カタールのレストランやスーパーマーケット等のバイヤーと商談を行い、将来的な協力関係への道筋を付けた。静岡県温室農業協同組合クラウンメロン部会、株式会社H.Eフードウェイズ、株式会社SAMURAI SUMMIT、JA広島果実連及び株式会社秀果園の5つの生産者団体・企業がはるばる日本から参加した。

菱沼会長は、このイベントをきっかけに、カタールで日本の青果物の流通を広げるネットワークが生まれることを期待している。

このイベントには、農林水産省からの日本政府関係者や国内外の起業家が参加した。試食では、参加者らが日本の果実の豊かな風味と新鮮さを味わうことができ、カタール市場での存在感を高める取り組みを後押しした。

執筆者: ジョエリン・バルユット(ザ・ペニンシュラ紙)